

テーマ：インフラ・防災

阿賀町 室谷地区

2024.2.18

○室谷地区・室谷青年会について

Q,まずは、室谷地区について教えてください。

A,新潟県阿賀町に属する地区で、人口は115人、世帯数29、高齢化率35.6%です。

特別豪雪地帯で、冬には雪の壁が出来上がるほど積もります。玄関は二重扉であったり、住居スペースの下に倉庫をもちいた構造、窓には雪囲いまたは冬囲いという、木の板で雪から窓を守る減災対策を行っています。除雪をするためのブルドーザーがある家もあります。

Q,青年会が始まったきっかけは何でしょうか。

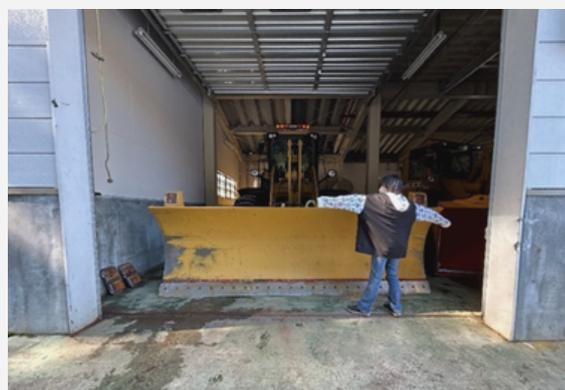
A, はじまりは明治まで遡ります。集落の青年たちの勉強会がもとになっていますが、どのようにして現在のかたちに至ったかは分かりません。続いている理由として考えられるのは、入会の数が少なくなっている影響から厳しかった規約を緩くしたことです。そこには、長く続けてきたことを「終わらせるのは駄目だ。」という気持ちもありました。

Q,青年会の規約とはどんなものでしょうか？

A, もともとは、室谷集落在住・男性・独身・35歳までという規約でしたが、それだと今の会員も半分以上いなくなってしまいます。そのため、室谷集落もしくは阿賀町在住で、私たちの活動を理解して、興味がある人ならだれでも会員になれるように規約を変更しました。



室谷神社の中腹で撮影



除雪用のブルドーザー



開村時の部落構成を記したもの

Q,現在の青年会のメンバーはどのくらいですか？

A,現在、メンバーの人数は13名で活動しています。最年長は46歳、最年少は21歳です。

Q,若い方だと21歳なんですね！やはり青年会に若手は必要ですか？

A,集落自体が明るく元気になるから、必要だと思います。若い世代は室谷から離れていくので人が集まらないのが現状です。もともと会長を決めるときは、年功序列で決めていましたが、今は、室谷に住んでいる青年会のメンバーの中から会長・副会長を決めています。

Q,会長が青年会に入った理由を教えてください。

A,入会する前に親が会員だったこともあり、憧れがありました。でも入会の決め手は、室谷が好きで地元愛があったからです。高校卒業と同時に自然に入会する人が多い印象です。

Q,地元愛いいですね。青年会の普段の活動は何をされていますか？

A,月1回（月末の水曜の夜、調整もある）、青年会の定例会が行われます。20～30分、活動や行事について話し合いをして、その後お酒を飲み始め、会員と交流を行います。会員の中には消防署員もいるので、避難訓練や心肺蘇生、初期消火訓練も行っています。他にも林道の整備や用水路・山水の維持管理などの活動もありますが、青年会が防災に直接関わっているわけではありません。

Q,青年会が関わっているイベントはありますか？

A,9月の室谷地区で行われる祭りとして2月に行われる学芸会「室谷おもしろえぞ祭」の2つです。室谷地区の祭りでは神輿を担いで各家をまわるため、お年寄りにも喜ばれています。



室谷青年会の会長と会員の皆さん



室谷祭礼のお神輿



室谷おもしろえぞ祭

○インフラ・防災について

Q,ここからは、室谷の防災、設備、インフラについて教えてください。

A,青年会で防災についての決まりはないですが、区長の考えとして、避難訓練や初期消火訓練、心肺蘇生法の救急講習を室谷地区の住民を対象に行い、防災意識を高めたいとは考えています。他にも、室谷地区は小さい地区なので、どこの家に足腰の不自由な人が1人で住んでいるという情報や、病気を持つ人がいるという情報が青年会に入ってくるので、会員含め地域の住民同士で見守りを行っています。その他、青年会の中に消防団員が5、6人いるので、月に1回、夜警パトロールを行っています。

Q,区長の考えで様々なことを行われているのですね。ところで、1月1日の能登半島地震は大丈夫でしたか？

A,幸いにして大丈夫でした。室谷の地域は、硬い地盤の上にあるので、他の集落より揺れは大きくなかったです。ですが、室谷地区は、道中にある橋が仮に1個でも落ちてしまうと、完全孤立してしまいます。一昨年は、大雪の影響で道中に木が倒れて、電線も切れてしまい、電話・電気が繋がらず、車も進めない状態が3日間続きました。室谷地区は電気が切れて時間が経つと、圏外になってしまいます。ですが、電気がなくても、薪ストーブの家が多く、寒さを凌ぐことはできます。食料も備蓄をしておく習慣があり、問題はありませんでした。



室谷地区を守る消防車



備蓄している大量の薪



阿賀町立西川小学校神谷分校

Q,室谷地区では災害が起きたときは、公民館や体育館を開放しますか？

A,場合によっては開放します。他の集落に助けを求めることも考えられますが、室谷地区はどこにも繋がってなくて行き止まりです。本来は、林道を抜けると福島県に行ける橋がありますが、1度水害で橋が落ちてしまったので、それ以来、行き止まりになっています。

Q,室谷は高齢化率が35.6%ですが、普段や災害の時、高齢者の体調が悪くなった時はどうしているのですか？

A,近所だけではなく、仮に私（会長）の祖母が具合の悪い状態になっても、消防署員の会員に電話をかけて、少し見てほしいとお願いをすることがあります。室谷の人は元気な人が多いですが、1年間に10回前後は呼ばれます。室谷の高齢の方は救急車を呼んでほしくないという考えの方が多い傾向だと思います。

Q,室谷に住む高齢者は元気な人が多いんですね。ですが、高齢の方が多く、設備の維持・管理はどのような仕組みで行っているのですか？

A,設備の維持・管理で青年会が関わっていることは除雪です。集落から1区間を委託されて行っています。あとは、山水を家に引いている家庭もあるので、用水路の維持・管理も行っています。管理は当番を決めており、当番以外では、各時期を決めて青年会で一斉に行います。当番が活動する時期は、冬場が多いです。室谷は雪が多い地区なので、水を確保しないと各家庭の除雪が難しくなります。それを青年会で当番を決めて行っています。



公民館



室谷の用水路を見学している様子



室谷のまちな様子

○農×福スパイスカレーについて

Q、「農×福スパイスカレー」とは何ですか？

A、「農×福スパイスカレー」は、室谷地区で育てた、コリアンダーと就労継続支援施設B型ラグーンで作られる100%阿賀町産レトルトカレーのことです。

Q,100%阿賀町産！？なぜ、レトルトカレーを作ろうと思ったのですか？

A, 地域の特産品を使って、室谷のPRができるものを作ろうと考え、コリアンダーならと思い作りしました。特産品を考えていたころ、コロナ禍でイベントの中止が相次ぎ、活動資金の収入源の1つだったイベント出店が難しくなりました。その時、通販でも販売できるレトルトカレーは、新たな収入源にもなると思い、室谷集落と新潟市の医療法人水明会・就労継続支援B型ラグーンが連携し、ラグーンカフェの人気メニューである「ラグーンカレー」のレシピをベースにレトルト化を行いました。

Q,共同開発で作られたのですね。ちなみに「農×福スパイスカレー」のパッケージはどなたがデザインされたのですか？

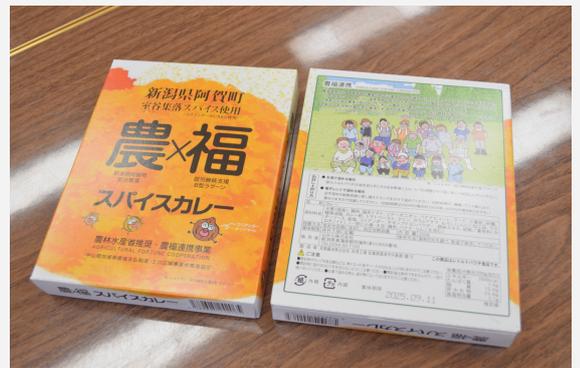
A,「農×福スパイスカレー」のパッケージデザインは、ラグーンatorie部であるしゅんすけさんが担当しました。ラグーンカレーとコリアンダーシード、阿賀町での農作業時に撮った記念写真を描いてパッケージにしてくれました。

○「農×福スパイスカレー」の食リポ

阿賀町で育てた野菜や果物と、室谷地区で育てたコリアンダーシードを使ったカレーは、口に入れた瞬間の芳醇な香味と、まろやかな甘味。新鮮なスパイスは、香りの芳醇さが普通のカレーと違いました。農×福スパイスカレーは、「体に良いもの、安全なものを提供したい」という思いから、こだわりの食材がたっぷりと使われていました。



カレーの説明を受けている様子



「農×福スパイスカレー」のパッケージ



カレーをおいしくいただきました！

○今回の取材を通しての感想と課題

今回、阿賀町にある室谷地区を取材して、青年会、インフラ・防災、農×福スパイスカレーについてお話を伺った。青年会の皆さんが明るく和やかな雰囲気でご迎えてくださり、あまり緊張をせずに取材を行うことが出来た。今回の取材を通して、青年会の皆さんが地元愛溢れ、室谷を盛り上げたいという強い気持ちで活動していることをより一層感じた。しかし、室谷地区を取材して見えてきた課題には、

- ①室谷地区に住んでいる若者の不足
- ②橋が崩れたときに孤立してしまう
- ③災害が起きたとき、電波が通じなくなる

の3つがあげられた。

上記3つの課題に対して自分たちはどうすればいいのか考えたところ、

まず①の課題については、室谷地区と大学で連携を取り、外の若者に魅力を知ってもらうことが一番だと思った。新潟市から近いところできれいな川の音が聞くことのできる室谷地区。今年は暖冬であり雪は降り積もらなかったが、普段は2～3mほどの雪壁が出来上がるほどの豪雪地帯である。雪壁ができるほどの豪雪地区は、除雪など生活をするうえで大変なことが多くあるが、室谷地区の自然は大変魅力であると感じた。室谷地区の魅力はまだまだ私たちの周りでは知る人が少なく、大学生同士で交流を取り自然体験ができる機会を設ければ、その魅力を伝えることができるのではないかと思う。そこで体験したことをSNSなどのネットワークで発信・共有ができれば興味・関心がある人が魅力を感じ、室谷を訪問してくれるのではないだろうか。



和やかな雰囲気での青年会の皆さん



まちを案内していただいている様子



雪山の上で撮影

次に②の課題については、もう1本大きな道を作りトンネルなど丈夫で安全なものを整備したりなど、周りの環境の整備を維持できるのであれば、倒木や土砂災害の被害が減り、室谷地区が孤立することがなくなるのではないかと考えた。

最後に③の課題については、固定電話での住民の健康状態の共有や、無線Wi-Fiを各家庭や小学校、公民館などの住民が集まりやすいところに設置するなど、ネット環境を整えることができれば、災害が起きた際にも助けを求めやすくなるのではと考えた。また、災害が起きて連絡ができない状況となった際に、役所などに救急信号が入り被害が広がっているところに応援が駆けつけられるような環境を整えることができれば、より安心して過ごすことができるのではないかと思った。



住民の家にある
モニター付きの固定電話



最後は全員で📷

取材にご協力いただいた室谷青年会の皆さん、
誠にありがとうございました！